



—東地中海地域ニュース—

イスラエル：イラン、ヒズブッラー、シリアとの緊張 (2月24日付ハアレツ紙)

24日付ハアレツ紙が、イランとヒズブッラーおよびシリアとの関係に関するアモス・ハルエル、アビ・イサハロフ記者の記事を掲載している。概要は以下のとおり。

1. 2月23日、レバノンの Samir Ja' ara 博士（キリスト教・スンニ派グループ）による「ヒズブッラーは近い将来、レバノンを経由してイスラエルとの戦闘に巻き込まれる可能性があり、イスラエルと異なり、戦争への備えのないレバノンの民間人等は正面からイスラエルからの攻撃の矢面に立つことになる。」との異例の主張が公表された。
2. 一方、サウジ紙は、アフマディーネジャード・イラン大統領によるシリア訪問予定について触れ、バッシュアール大統領と会談するほか、ヒズブッラーのナスラッラー書記長、ハマースのマシュアル代表とも会談する予定と報じた。
3. 先週、アフマディーネジャード・イラン大統領は公の場で、イスラエルがシリア、レバノンとの戦争を企んでおり、その場合、イランは両者に味方すると発言したところ、訪露中のネタニヤフ首相は「根拠のないもの」と直ちに否定した。
4. このようなシリア、レバノンとイスラエルとの緊張に関する報道は、イランの核計画の進捗を懸念する評価、脅威、予測が連日取り沙汰される中で起きている。これら二つの主題は共に繋がっており、バラク国防相の訪米日程を遅延させた要因となった可能性がある。
5. ジョーンズ米安全保障問題担当補佐官は、アフマディーネジャード大統領の警告とは逆の可能性に関する警告を行っている。即ち、イランはハマースやヒズブッラーを利用してイスラエルを攻撃させることで、イランへの制裁を実現しようとするオバマ米政権のイニシアティブから、国際社会の関心を逸らせる試みを行うかもしれないと主張する。
6. イランの関与を得て、ヒズブッラーはイスラエルの警戒を高める動きに出ようとしている。先週のスピーチでも、ナスラッラー書記長は、ベイルート空港などレバノンの民間インフラが攻撃されるならば、ヒズブッラーもテルアビブやベングリオン空港を攻撃するとのテロの均衡に関する自身の視点を披瀝した。

7. 偏執的動機を除いて、このような衝突を引き起こすきっかけとなるものは、イランが同国のパートナーを教唆して武器の移転を行わせることである。北部方面司令官アイゼンコット少将は。「シリアに保管される最新兵器はいずれヒズブッラーの手に渡る」との懸念を示した。

8. シリアが危険な兵器を（ヒズブッラーに）通過させるという過ちを犯しそうになった時など、過去二年間で何度かイスラエルは、レッドラインの引き方を知ることになったが、このようなレッドラインにかかわる問題は、近い将来にも起きる可能性がある。